

組合員の雇用と利益を守る新生 JR 東労組に対し、 分裂策動を行う者たちを許さない高崎地本見解

JR 東労組は 18 春闘を「大敗北」と総括し、これまでの運動を反省すると共に、組合員の声を受け止める新生 JR 東労組運動をつくり出してきた。そして、2018 年 4 月の臨時大会以降、100 名を超える仲間が再結集し 2020 年をスタートした。

そのような中、水戸・東京・八王子地本の一部の職場で、新生 JR 東労組運動と決別する分裂策動が報告されている。ある職場では、JR 東労組に残るのか、分裂組織に行くのか、組合をやめるのかの選択を迫られていると報告がされた。分裂組織に入らないのならば JR 東労組の数を減らせという事なのか。その組合員の雇用と利益を守るという観点がない。分裂組織に入らなければどうにでもなれということか！これが組合員に寄り添うという事なのか！

また職場集会で分裂を提起され、組合員が協約について役員に尋ねると「脱退すれば協約は適用されない」と自ら言っていたにも関わらず「それはどうにかする」と方向性を示さず、誤魔化している。職場の組合員から「緑の風も討議資料も配布されない、本部の FAX ニュースも掲示されない」「短い期間で判断させられる」「どうしていいかわからない」「何で分裂しなくてはならないのか」「割れて欲しくない」「これから施策を担うのに協約がなくなってしまふから行きたくない」「どうせ一部の役員しかいかない」など混乱の声が中央本部に届いている。分裂策動を行う者たちは、組合員を迷わせ、混乱を組織に持ち込むことを直ちにやめるべきだ！高崎地本はこのような分裂策動を決して許さない！

また、あたかも分裂組織が第一組合になれるデマが流されているが、現在においても、水戸・東京・八王子地本の組合員数は JR 東労組の過半数を超えていない。まして、会社との対立だけを組合員に求める分裂組織は少数派になることは明確である。良識ある組合員を騙して連れていくのはやめるべきだ！

分裂を先導するものは、18 春闘の指導責任を反省せず、スト権投票時に賛同することを組合員に強いたように、またもや組合員を引き回している。自らの主義・主張が通らないからといってウソ・デタラメで組織を分裂させ、自らの意のままになる組織を目指す分裂策動を行う者達を許さないたたかいを良識ある組合員と共につくり出すことを宣言する！

新生 JR 東労組は、19 春闘以降「新たなジョブローテーションの実施について」をはじめ、「賃金制度等の改正について」「ワンマン運転の拡大について」「旅行業部門の今後の方向性について」の諸施策や「感電事故の再発防止に向けた緊急申し入れ」「2019 年度年末手当」など、合計 50 回を超える団体交渉等を行ってきた。

年末手当交渉団に対して、職場から創造的な檄の取り組みをつくり出して頂いた。交渉においては、安全・安定輸送の確立、台風の復旧作業への尽力、矢継ぎ早な施策に向き合い、それらを着実に収益に繋げてきた職場の苦労を主張し、会社と認識一致を図ってきた。そして、昨年同月数の妥結、年間 6.09 ヶ月を勝ち取ることができた。

これからも「安全・健康・ゆとり・働きたい」を実感できる職場をつくりあげるために、高崎地本は新生 JR 東労組の旗の下に結集することを全ての組合員・離脱者に堂々と訴えていく。

新生 JR 東労組は、組合員の雇用と利益のため、会社の発展を目指し、労使関係においても職場の声を基に施策に真剣に向き合い建設的な議論を行うことは今後も変わらない。会社との対立だけを目指す分裂組織とは、明確に違う。

JR 東労組は、今年結成 33 年を迎える。JR 東労組には多くの組合員のたたかいによって積み上げてきた労働協約があり、雇用と利益を守るために結集した多くの組合員がいる。今回の分裂策動は、この間の苦闘を無にするものである。

18 春闘の誤りを認め、組合員の雇用と利益を守る新生 JR 東労組に対し、分裂策動を行う者達を許さないたたかいを全組合員でつくり出していくことを明らかにし、見解とする。

2020 年 1 月 24 日
JR 東労組高崎地方本部
第 7 回執行委員会